

MONTHLY NEWS LETTER

三菱UFJモルガン・スタンレー証券

ビジネスと投資に役立つマンスリーニュースレター

5

May | 2026

高橋FPの社長が知りたいお金の話

生前贈与における「暦年課税」の注意点

海外経営者列伝

ジェームズ・クインシー

データと画像で考える、未来の世界

日本の産業政策

5月の主要経済カレンダー

米トランプ大統領訪中、G7財務大臣・中央銀行総裁会議ほか

マネークリップ

証券会社と考える、資金の「寝かせ方」

アジアの世界遺産

オルホン渓谷の文化的景観



写真:アフロ

動揺するマーケット

冷静に見直したい投資環境

ニュースフローで市場が大きく動く局面が目立つ、2026年のマーケット。
ニュースを賑わす「原油価格」以外にも、目を向けておきたい。

イラン情勢をめぐるニュースに相場が大きく反応している。事態の長期化につながりそうな材料が出ると、株安・原油高で反応しやすく、逆に、停戦や沈静化を示唆するニュースが出ると、その動きが巻き戻される。3月の相場は、この往復運動を繰り返しているように見えた。

ただし、注意すべきは、この「株安・原油高」という動きの部分だけが過度にクローズアップされていた点である。当事者の発言は食い違い、続報で前提が簡単に覆ることも多い。情報はやや錯綜しており、その時点で真実を見極めるのは難しい。にもかかわらず、市場はヘッドラインに即

座に反応してしまう。ニュースや特定のキーワードに反応するアルゴリズム取引やAIを用いた自動売買によって、このような影響が増幅されやすいとも指摘されるところだ。特に日本株はエネルギーの中東依存度が高いこともあり、ボラタイルな展開が続いた。

ホルムズ海峡を通過するのは？

こういった局面こそ冷静にデータを見ることが必要だ。ホルムズ海峡を通過するのは原油だけではない。例えば、肥料。とりわけ窒素肥料にとって、ホルムズ海峡はチョー



クポイントとなっている。窒素肥料は天然ガスを主要原料とし、海上輸送への依存度も高い。海峡周辺の緊張が高まれば、生産と物流の制約が同時に作用し、窒素肥料の供給や価格に影響が及ぶ。

肥料価格の上昇や供給不安は、施肥の遅れや作付けの見直しにつながり、時間差で穀物価格に波及する可能性がある。株式市場では肥料関連企業の株価に、そして商品市場では穀物関連の先物に上昇圧力がかかっている。原油ほど目立たないが、生活の根幹に関わる分野で、今後影響は静かに広がっていくだろう。

半導体製造や光ファイバーの生産工程で不可欠なヘリウムも中東への依存度が高い。天然ガスから回収される資源だが、産地によってヘリウムの含有量は異なる。天然ガスの産地は分散されているが、ヘリウムは米国とカタールが二大生産拠点。供給網が詰まり、時間差で半導体などの生産計画やコストに影響を与える可能性がある。原油価格だけを見ていると、こうした点を見逃しがちである。

動いているのはイラン情勢だけではない

イラン関連のヘッドラインに注目が集まっている間にも、市場にとって重要なニュースは同時並行で出ている。例えば、AI（人工知能）。エヌビディアは開発者会議で、AIの主戦場が学習中心から推論、すなわち実運用へと移りつつあるとの認識を示し、推論処理を強化した半導体の投入を打ち出した。これは、AI投資が単に規模拡大のフェーズから、用途や効率を重視する段階へ移行していることを示唆している。

医薬品では、イーライリリーの経口肥満症治療薬が承認された。注射剤と比べて服用のハードルが低い経口薬は、大きなヒット商品となる可能性を秘めている。経口薬が普及すれば、生活習慣を大きく変える可能性もあり、そうなればその影響はヘルスケア領域だけにとどまらないだろう。

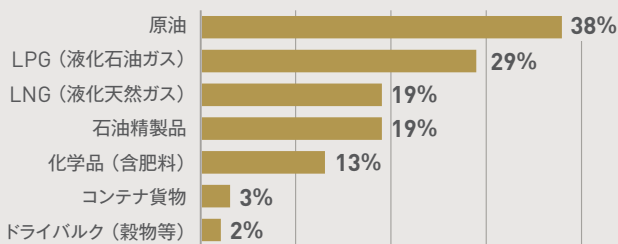
*

株価は、大きく報じられるニュースに沿って動きがちである。しかし、その裏側では時間差で顕在化する供給制約や、別のテーマが同時進行している。大きな変化の局面では、行き過ぎた投資行動が起こりがちで、ミスプライスも生じやすい。「戦況」や「原油」だけで世界を単線的に理解しないことが重要だ。短期の値動きと構造的な変化を切り分け、長期的な成長が期待できる資産の下値を丹念に拾うという姿勢も大事ではないだろうか。

そうした作業を進める上で、証券会社のレポートは有効な道具になる。視点を整理し直すことで、判断の軸を取り戻すことができるだろう。大きな変化の時こそ、冷静にその先を見据えたい。

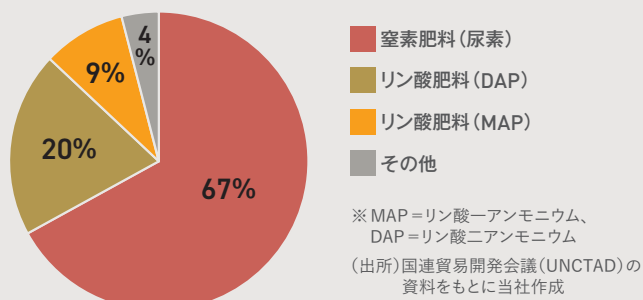


■ 図表1 ホルムズ海峡を通過する世界の海上貿易量の割合

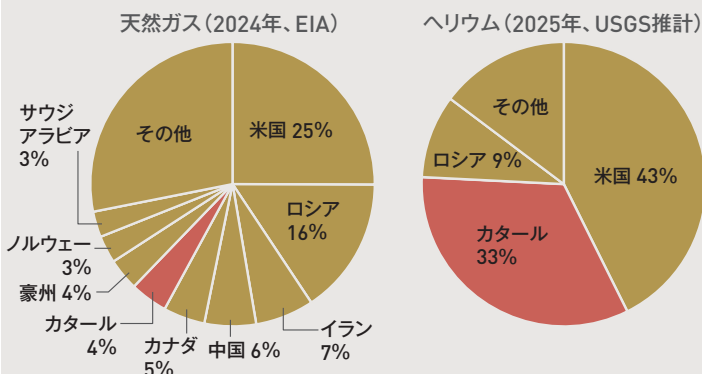


※紛争発生1週間前時点 (出所) 国連貿易開発会議(UNCTAD)の資料をもとに当社作成

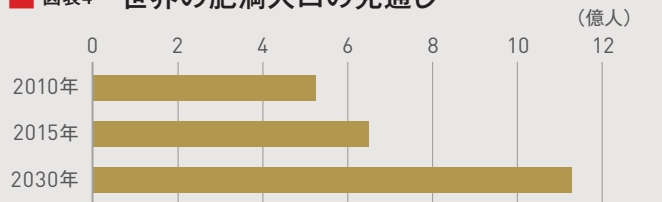
■ 図表2 2024年にペルシャ湾地域から海上輸送された肥料の内訳



■ 図表3 天然ガス(左)およびヘリウム(右)の生産シェア

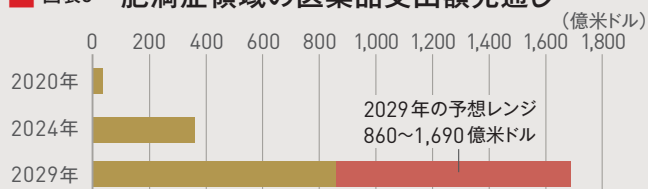


■ 図表4 世界の肥満人口の見直し



※1 予想は世界肥満連合(2025年3月時点) ※2 肥満人口は20歳以上でBMI30以上 (出所) 世界肥満連合の資料をもとに当社作成

■ 図表5 肥満症領域の医薬品支出額見直し



※1 予想はIQVIA(2025年5月時点) ※2 2029年のベースシナリオは1,080億米ドル (出所) IQVIA Global Use of Medicinesをもとに当社作成